

長野県稲荷山養護学校 における
iPad活用報告

長野県稲荷山養護学校

導入と活用の状況

- 2011年7月に貸与
- 8月から職員向けの研修と、試験的な導入開始
- 10月以降本格的に活用開始
- 合計9台を3つのブロックで使用中

本校の教育課程

- 3つのブロック

1 ブロック

肢体不自由の児童生徒。
小・中・高の各教科の学習中心

2 ブロック

肢体不自由の有無にかかわらず、
知的障害のある児童生徒。
各教科等を合わせた学習中心

3 ブロック

肢体不自由を伴う
重度・重複障がいの児童生徒。
主に自立活動の学習が中心

1ブロック

高等部 A生の活用

主な使用ソフト	Safari 	大辞泉 
活用の目的	大学生生活に向けての情報収集	電子辞書としてレポートなどに活用
使用の状況	大学合格後の12月から使用スタート 現在「後輩が受験勉強をする時に、役立つアプリ」を調べている	

2ブロック

高等部 B生の活用

<p>主な使用ソフト</p>	<p>ドロップトーク </p>	
<p>活用の目的</p>	<p>代替コミュニケーション機器を活用し、朝の会の司会の場面で、基本的なやり取りを行うことで、コミュニケーションの基本的な力を身につける。（B生の個別の指導計画より）</p>	
<p>使用の状況</p>	<p>これまで教師の補助が多くなりがちだった活動が、iPadとドロップトークを用いることで、B生が単独で行える部分が多くなった。B生の操作で音声が出されるまで、クラスの生徒が待ってくれたり、操作に迷った時は、隣の席の生徒が自然に最低限の手助けをしてくれたり、生徒間お互いを意識した関わりも増えている。</p>	

2ブロック

高等部 C生の活用

主な使用ソフト

- ・モジルート
- ・タッチタッチ

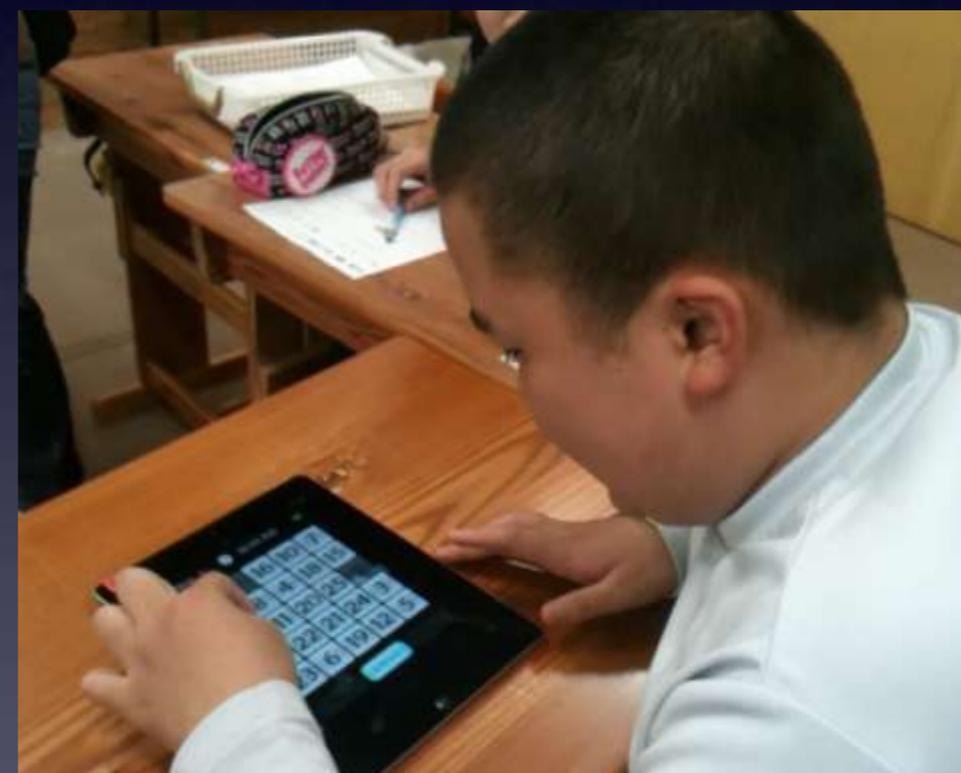


活用の目的

- ・ひらがな、カタカナを正しい書き順でかいてほしい。
- ・1から50までの数唱と数字並べをおこなってほしい。
(C生の個別の指導計画より)
- ・なかなか意欲をもって取り組めない個別の課題学習に取り入れた。

使用の状況

- ・個別の課題別学習に週3回使用。
- ・iPadへの興味から学習意欲が高まり、自分で課題を準備し、時間いっぱい課題に取り組めるようになった。
- ・iPadはActionを起こすと、何かしらのResponseがあることから、学習に待ち時間がなく、一人でも進められた。
- ・具体的な例として、ひらがなの「あ」が正しく書けるようになった。



3ブロック

中学部 D生の活用

<p>主な使用ソフト</p>	<ul style="list-style-type: none">・カメラ・写真  	
<p>活用の目的</p>	<p>自分たちの活動を撮影したビデオを見る事で、活動を振り返ったり、見たいビデオを選択したりする。</p>	
<p>使用の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・D生自身が担任と一緒に友達や職員を録画して、一緒に観るという機会が増え、本人が楽しみにしている。その間 立位台に立つ学習が確実に出来るので、体幹のバランス取りにも有効である。・自分たちの活動の振り返りを、何度も繰り返し再生して観られるので、記憶に残りやすくなった。自分で観たい画像の選択もできた。	

3ブロック

小学部 E生の活用

主な使用ソフト

- ・ I Love Fireworks Lite
- ・ コドモアプリ
 - のりもの
 - でんしゃ -



活用の目的

課題活動目標
「画面を見る」
「問いかけに対して、左指を反らせる、声を出す、瞬きをするなどして気持ちを表現する」

使用の状況

- ・ iPad専用のアームを使って、顔から50cm程の位置に固定。見ていそうな所に指を置いて花火が出ると、口をあけて「おー」という表情になる。何度も繰り返すので、視線が画面上にある時間が長くなる。
- ・ 因果関係の理解も進んで来たようで、花火の光よりもやや見づらい電車でも、動きを追うような黒目の動きが見られた。



成果と課題

1 ブロック

すでにパソコンや電子黒板などを用いた学習環境が、ある程度整っているため、iPadを積極的に導入する必要がないクラスも多い。しかし、iPadはセッティングが容易で、幼児から小学生レベルの学習ソフトが豊富なので、それらを活かした学習支援を、特に小学部では進めていきたい。

2 ブロック

iPadはAAC機器として汎用性が高い。VOCA、タイマー、スケジュール提示にと、幅広い活用ができています。今後、更に個々の学習ニーズに合ったソフトの選択と、活用を進めたい。また、その具体的な方法の理解を職員研修で深めたい。

3 ブロック

障がい重度の子にとって、因果関係の理解、注視、基本的なコミュニケーションなどの力を伸ばすのに役立つソフトが豊富である。ソフトウェアを選ぶことで、光や音など、その子の好みや感覚機能に合ったFBが提示できるので、興味を維持しやすく、長い時間楽しめる点も良い。一人一人にあったセッティングについてはまだまだ補助機器が足りないため、今後研究し、確保していきたい。